



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1926, 5(2): 174-179

ISSUE DATE:

1926-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183053>

RIGHT:

## ○地球學團第三回講習會概報

大正十四年十二月二

十四日より六日間京都帝國大學理學部生物學講堂に於て賑々しく我學團第三回講習會を開いた。會員の參加するもの八十六名、小川講師の地殻論、石川講師の礦物學汎論、中村講師の地史學一斑、横山講師の古生物學、本間講師の岩石學何れも斯道の大家揃ひの事として、團員好學の士の奮勵も亦稀に見る意氣込みで豫定の如く着々進行した。十二月二十六日夕京都帝國大學樂友會館にて茶話會を開いた時の如き會員海軍少將植村信男氏が水路部の種々の出版海圖を持つて來られて親切な説明をされ、會員一同思はぬ收穫を得た、其他各員の御國自慢や、地理學界に對する希望や、學團への希望不滿などがあつた。猶ほ團員福岡師範の栗田鼎造氏は礦物標本を分配し且つ礦物教授上の指針といつた風の印刷物を配布せられる、岡山支部の水野千里氏は天文同好會の發展を聲明するといつた工合で、主客和氣霽々のうち午後九時散會、ひきつゞいて暮の廿九日といふのに二上山の見學をやつた所これ又會員殆んど洩るゝ所なく、二名の婦人まで同行されて萬綠叢中の紅二點、地理學界にこの篤學の女丈夫のあることを心強く思つた。(藤田)

## ○地球學團第三回講習會二上山見學旅行記事

一、出發及解散、十二月廿九日午前七時三十七分京都驛發、大阪驛にて乗換、同九時十五分大阪天王寺驛着、同九時三十分

## 第五卷 第二號 一四 七六

阿部野橋驛より乗車、太子口喜志驛着下車、徒歩にて東行、二上山を経て下田(和歌山線、省線停車場)に到り解散、徒步行程約三里。

二、見學要項、火山地質地形一斑、春日附近の河段丘、片麻岩、松脂岩、讃岐岩、栂榴石石英安山岩、ドンデリボー凝灰岩、黑雲母角閃石安山岩の集塊岩、穴虫栂榴精鑛場見學。

三、地圖、五万分一大阪東南部一葉、又二万分一古市、富田林の二葉。

四、記事、本間理學士以下、京都驛より乗車したものの五十六名、大阪其他から參加した多數の團員もあり、帝大學生、師範生、女高師生などの自由參加もあつて一行は七十名に達した。阿倍野橋驛から大阪鐵道の電車で攝河の平野を斜に走る。五万分一地圖に線路をプロットする者、日本大工業市の郊外狀況を觀察するもの、二上山や生駒諸山の勇姿を眺めて快哉を叫ぶもの、それゝゝ車中は賑しかつた。電車が大和川を渡つて暫くすると、雄略、仲哀、應神、允恭、仁賢といつた様な御陵が、次から次へと、走馬燈のやうに、車窓から拜せらるゝ。喜志驛に下車し、石川橋を渡つて東行すれば、どんより曇つた師走の風は寒いく、葛城金剛の諸山は半ば雲霧にかくれ、二上山の雄嶽、雌嶽のみ鮮に見えた。聖德太子御陵に參拜、後方の洪積礫層丘陵地調査、礫中には二上山の熔岩礫も存在するが、主として古生層岩石の砂利と薄き褐色粘土層との互層、走向東西、南に四五十度の急傾斜を測定した。本間助教より地形地質に關する、藤田三富教授より歴史地理に關する臨地講演があつ

た。境内茶店で盡食、午後一時前に出發して春日に至り、附近の美しき段丘、石榴石採取状況を觀察しつゝ北行、牡丹洞に至りて白色凝灰石を見る。走向北十度東又は南北、傾斜西に十六度。岩石採集、暫くにして片麻岩の露出あり、再び凝灰岩、眼岐岩、松脂岩等を採集しつゝ所謂、ドンチリボーに登れば、眼界餘邊、攝河の平野、奈良盆地、城和の連山、招呼の間にあり、本間助教授の臨地講演があつた。(圖版参照) 附近の凝灰岩は走向北六十度東、西北に三十度—五十度の急傾斜を示す。ドンチリボーを辭した一行は、穴虫石榴石精錬場を思ひくに見學し、洪積臺地の想途を辿りつゝ、耳成、香久、敵傍の翠巒の前に見て下田着。時に午後三時。この日、午前中は曇り勝であつたが午後は快晴、急ぎの旅行であつたが、火山及山麓の地質構造に關する新發見もあつて、二上火山の研究の趣味をしきりにそゝられつゝ、年の瀬の一日を愉快に送つたのを喜びながら下田驛にて解散、新春を迎ふべく、或は東北へ、或は西南へとそれぞれ歸途についた。木間、君塚、上治の三氏の外に横山、藤田、小牧の諸氏が參加せられ、種々指導の勞をとられたことを感謝する。(TU生)

### ○文部省地理科本試験問題

(第四十三回大正十四年十二月)

- 一、地球内部の構造につき如何なる假説あるか
- 二、深海の沈積物につきて説明せよ
- 三、淀川流域の地質を描き其の地理を説明せよ
- 四、ヨーロッパの水系と其の氷期に於て進られたる地形との關係を述べよ

離報

係を述べよ

五、オーストラリアの地圖を描き左の事項と名稱とを記入せよ  
經緯線、山系、水系、夏冬の雨量分布、主要なる鑛山、行政區劃

六、回教の分布につきて記せ

七、左の諸項につきて知る所を記せ

(イ) 地向斜 (Geosyncline)

(ロ) 變光星

(ハ) 徐州

(ニ) クアラ ルンプーン (Kuala Lumpur)

(ホ) イースター島 (Easter Island)

右 四時間

### 十二月十四日(第一日) 口述試験問題

第一室 (内田、飯本兩試験委員)

1. 二十万分一帝國圖ノ註記拔島取圖幅ヲ示シ主ナル河川湖沼

港灣ノ名稱、都會ノ位置、山陰本線ノ所在地ヲ指示セシメ、

丸山川流域ニ於ケル最近ノ地變ニツキテ述ベシム

2. 四十万分一山東省詳圖、武定、濟南ノ二圖幅ヲ示シ黃河最

新ノ三角洲ニ於ケル産業、交通、聚落等人文ノ發達セザル理

由ヲ説明シ進シデ北支那平野ニ於ケル黃土ト農業トノ關係ニ

論及セシム

3. ハンドレベルヲ示シ其ノ使用法ヲ述ベシム

4. 埋木製ノ盆ヲ示シテ之ヲ鑑別セシメ其ノ產地、成因ヲ述ベ

シム

第二室 (山崎、辻村試験委員)

1. 黒板ニ北アメリカノ截断面ヲ描カシメ其ノ地形ヲ説明セシム
  2. アルプ山脈ノ截断面ヲ示シテ其ノ構造ヲ説明セシム
  3. 石英斑岩ト放卵虫板岩トヲ示シ、火成岩ト水成岩トノ特色ヲ比較シ説明セシム
- 十二月十五日(第二日)

第一室

1. 二十万分一帝國圖ノ註記抜田邊圖幅ヲ示シ主ナル河川ノ名稱、都會ノ位置ヲ指示セシメ、潮岬ノ成因ヲ説明セシム
  2. 二十万分一鳥取圖ヲ示シ前日ノ同圖ノ説明ヲナサシム
  3. 四十万分一山東圖ヲ示シ前日ノ同圖ノ説明ヲナサシム
  4. ワイルー氏測高器ヲ示シテ其ノ使用法ヲ述ベシム
  5. 眞珠介、岩鹽、オリーフ油ヲ示シテ之ヲ鑑別シソレゾレノ產地經濟上ノ價值ヲ述ベシム
- 第二室

1. 黒板ニ奥羽地方ノ截断面ヲ描カシメ其ノ地形ヲ説明セシム
2. 世界ノ氣候圖ヲ示シ之ヲ解説セシメ二ノ地方ニツキ其ノ氣候ノ自然及ヒ人文ニ及ボス影響ノ特色ニツキテ説明セシム
3. 閃綠岩、安山岩、玢岩、三角介砂岩、珊瑚礁石灰岩、氷河礫岩等ヲ陳ベテ其ノ火成岩カ水成岩カラ區別セシメ其ノ一二ノ特色ヲ説明セシム

〇二上火山麓柘榴石採取業

大和河内兩國境の二上火山岩の一種に柘榴石を有する石英安山岩がある。この安山岩

の風化・崩壊による砂礫は、山麓の崖・段丘・河岸等に堆積するを以て、この砂礫を水極して柘榴石を採取することは、古くから行はれてゐる。目下、大和の穴虫、河内の春日等の村落では小規模なる家内鑛業によつて精鍊しつゝあり。穴虫には農家の副業的にこれに従事するもの四戸(年産額一萬駄位、一駄は四十貫、その價二十圓内外と聞く。春日には二月許、その産額は穴虫の約四割位に過ぎぬといふ。附近に於ては山麓の田地を掘り、その土砂を水極して採取せる處もありて、田地一坪の地下より十五駄位を得るといふ。柘榴石はアルミニウム、鐵、滿鐵、クロミウム、マグネシウム等の複雑なる硫酸鹽で、一般に  $\text{Fe, Mn, SiO}_2$  又は  $\text{FeO, FeO}_2, \text{SiO}_2$  なる分子式を有する。(Rは金屬を示す)結晶形は等軸晶系に屬し、斜方十二面體、五角二十四面體等の形を普通とする。色は淡綠、綠、淡赤、赤葡萄酒、赤血、黑褐等あり、含有金屬によりて色彩を異にする。二上山の柘榴石は葡萄酒色乃至黑褐色を示し、鐵、アルミニウム、カルシウム等の酸化物を多く含むが如し。柘榴石の色彩光澤美しきものは紅玉に類似し、寶石として用ひられるが、日本には未だ產出せしを知らず。穴虫附近の柘榴石の如き多くは微粒なるを以て大阪、名古屋等に移出し、金剛砂としてサンドペーパー其他研磨用に供せらるゝのみ。(上治)

〇最近の鐵道開通

最近に各地の鐵道が延びた、凡五線、左の如し。

飯山鐵道 西大瀧(既設)より信州白鳥驛迄一哩三分白鳥より横倉驛迄三哩、横倉より森宮野原驛迄一哩九、合計六哩二分、

大正十四年十一月十九日より開通、この線は信越線島居驛より發して飯山をすぎ、信濃川左岸に通じ森宮野原は實に長野と新潟の縣界に當る、この線は更に十日町をへて小千谷に達し北越線に連絡せんとするものとす。

高知線 高知驛より土佐一宮驛迄二哩四分、一宮より土佐大津迄二哩、大津より土佐後免驛迄二哩、後免より土佐山田驛迄三哩合計八哩四分十二月五日より開通、この線は省線四國縱斷の一部である。

紀勢西線 箕島驛より紀伊宮原迄二哩七分十二月十一日より開通。

士幌線 北海道、帶廣士幌間十八哩七分十二月十日より運輸開通、この線は帶廣より音更をへて北に行くものである。

七尾線 七尾より和倉迄三哩二分、大正十四年十二月十五日より運輸開通、同時に七尾停車場を改め七尾停車場より一は七尾港驛に、一は和倉行を出すこととなる。

### ○大正十四年十月末船舶現在 (遞信省)

積量	汽船	數	總噸數	登簿噸數
二十噸以上百噸未滿	一、四三隻	三、(四)噸	二、(四)噸	
百噸以上三百噸未滿	四四	七、八五	二、(四)噸	
三百噸以上五百噸未滿	一三	三、二九	二、(四)噸	
五百噸以上千噸未滿	二六	一、七〇	二、(四)噸	
千噸以上二千噸未滿	二五	二、〇六	二、(四)噸	
二千噸以上三千噸未滿	一六	四、六三	二、(四)噸	

三千噸以上四千噸未滿	一三	四、〇〇	二、(四)噸
四千噸以上五千噸未滿	七	二、〇四七	二、(四)噸
五千噸以上六千噸未滿	二〇	六、七〇五	四、八、三〇
六千噸以上七千噸未滿	五	三、九、二七	三、八、七七
七千噸以上八千噸未滿	三	二、四、六六	二、四、六六
八千噸以上九千噸未滿	五	四、六、七五	二、四、六六
九千噸以上一万噸未滿	二	一、三、六九	六、四、四
一万噸以上	二	二、七、七六	七、四、四

### 合 計

帆船 二十噸以上	三、一七	三、四、六六	二、(四)噸
帆船 二百石以上	一四、〇九	八、八、二四	二、(四)噸
和船 二百石以上	六三艘	一、六、六三	二、(四)噸

### ○支那海中海底臺地の發見

米國軍艦ステュート (Stout) 號は、一九二四年三月太平洋の海深測船中深さ約二千尋の支那海、呂宋の西北、ボリナオ岬の西北八十三哩、北緯一七度一六分、東經一八八度三四分の地點に於て、東西約八哩、南北約五哩の臺地が、深海底から急劇に深さ三〇〇乃至一六〇尋まで高まつて居るのを發見した、是は珊瑚礁問題に特殊の意義を與ふるものとして注意に値する、彼のグリーン氏の珊瑚礁生成説によれば、深海底中に斯くの如き臺地があるべき筈であつて是迄あまり見附ら無かつたものであるが、今後尚未測量の深海底から追々此種の臺地が發見せらるる事に爲れば頗る面白い事實である、此臺地の成因は尙問題であるが、デヴィス氏 (W. M. Davis) の考へでは、亞細亞の東境は、地盤の傾動の爲めに、花彩狀島嶼を生じた地區で、比較的近代に沈降傾動を爲

したと考へらるる支那海中の此のステニワート臺地は、多分海底火山上に出来た珊瑚礁の沈降したものであらう、而して其中央部に深さ一六〇—二二〇尋であるのに周邊は深さ三百尋以上である事から察すれば、恐くは環礁（Atoll）では無く、堡礁（Barrier reef）であらうといふ、尙其附近の海底測量を精密に行つて、臺地から深さ二千尋の海底に至る傾斜を確め、一、二、三の斷面圖を作る事が出来たならば、果して其が圓錐狀の斜面を爲すか否かも判るであらう、兎に角珊瑚礁問題に對して面白き一新發である。

## ○ロカルノ會議

一九二五年十月十六日スイスとイタリイの間にあるロカルの湖畔にイニシアルを施され同年十一月一日ロンドンに於て正式に調印されたロカルノ諸條約とは

一、獨逸、白耳義、佛國、英國、伊太利間の條約にて所謂ライン保障協定といふもの

二、獨逸白耳義間の仲裁々判協定

三、獨佛國の仲裁々判協定

四、獨波間の仲裁々判協定

五、獨逸と致須國との仲裁裁判條約

六、佛國とポーランド間の條約

七、佛國と致須國との條約

八、獨逸の問合に對し聯合國の共同覺書

即ち主なライン條約と獨逸に關する四個の仲裁條約は、歐洲の平和を齎らすものとして諸方面に喝采されてゐる、蓋し歐洲の列強はロカルの條約に於て始めて戰爭に訴ふるの權利を放棄

して平和の外交に入つたのである、但しこれらの仲裁條約は英國にも留保があつて、徹底的でなく、獨逸は仲裁々判に附する紛議は法律上の問題に限り、政治的紛争は和解機關に附することとなつてゐる、英國も總ての紛争を仲裁に附するが、國の面目に關する問題と重大利害とは除外して居る、絕對に戰爭をしない、無留保の仲裁條約は佛國と瑞西との間に締結されてゐるに過ぎない、しかしとにかく獨逸と其敵國の間に仲裁條約が成立したのであるから以前の如き平和を脅かさるゝことがなくなつて敵味方共に當分平和を樂しむことが出来るやうになつた、ついで來るべきものは無留保の仲裁條約の締結で軍備撤廢に進むべきであるが果して左様になるべきであらうか。

## ○メーメルの解決

巴里講和會議に於てメーメル地方の所屬が問題となつた時、聯合國はメーメルを獨逸より引離すべきを主張し、メーメルは住民の多數がリヌアニア人であり、且その港はリヌアニアの天然の海港なるが故に之を獨逸より引離すことを獨逸に通じ講和會議から一九二三年の初まで聯合國の代表が治めてゐた、然るに同年一月八日リヌアニアの軍隊がメーメルに闖入して之を占領したので聯合國との間の問題となり一九二三年三月聯盟理事會の決定によつてメーメルはリヌアニアの宗主權の下にメーメルが自治制を營むこと、總督はリヌアニア大統領が任命し、議會は一院制で普通選舉である、執政部は五人の委員より成る、メーメル港は國際的港灣となり、ニーメン河流域にあるリヌアニア國及他の諸國の森林にて伐採する材木は同河よりメーメル港に搬出するが便利であるから、特に

波蘭に對しては、ニーメン河の航運を即刻自由にした、メーメル  
の占領行政及國境劃定の費用中、未償却の分はリシアニアが  
負担するメーメルに於てリシアニア語と獨逸語とを公用語と定  
める、かくて五月になつて聯合國とリシアニアとは其條約に調  
印した。

### ○南阿の白金坑 一九二三年トランスバール州ウオター

パークの或角礫狀の鑛脈に初めて白金發見せられ、一九二四年  
には同ライデンパークの叢林中にある火成岩層の下部を形成す  
る鹽基性岩よりも白金の發見あり、これら兩地方鑛脈の廣大に  
して且白金含有率の多額なることは實に稀に見る所にして近き  
將來にて世界の一大白金出產國となるべしと期待せられ居り、  
黄金、金剛石、石炭につき主要坑業となる見込みなりといふ。

### ○日本の人造絹糸と支那 人絹の世界產額は一九二五

年豫想一億六千三百万封度と稱せられ最近十年間に十倍となつ  
た、我國も一九二二年約二十四万封度から一九二五年約二百八  
十万封度に激増してきた、而して一方我國への輸入も一九二二  
年に約二十万封度であつたのが一九二三年に約百万封度で現在  
消費高は年額三百万封度内外である、近頃旭人絹が大に發達し  
た外に石川や膳所に人造絹糸工場が出来るのは喜ぶべきことで  
主なる用途は肩掛帶紐類が約七割以上、混絹混綿としての消費  
は約一割三分になつてゐる、従つて本邦品が世界人絹市場へ乗  
出すのは今後のことで伊太利、佛蘭西の二國の品が主として支  
那へ輸入せられてゐる、然し日本品も弗々輸出しだしてゐるの  
であるから其研究は一日も忽にしてはならぬ。支那の人絹需要

は現在百三十番乃至二百番のものが多く百五十番見當に見込が  
多い、上海附近の縐リボン製造原料に用ひられ絹糸綿糸との交  
織にも用ひられる、製品としては絹や羊毛との交織であるサテ  
ン、クレープ、ネットクロス等英、佛、伊の産が輸入されてゐ  
る、スカーフ、靴下、リボン、ネクタイ、紐等が入る、我國か  
ら縐、綿交織、毛糸、メリヤス織等の輸入が引合つてゐる、  
絹糸よりも割安で光澤に特長があるから蠶絲代用として支那人  
の嗜好に適する、洗濯を要せざる婦人の裙子、着物の縁の装、  
リボンテール掛、椅子カバー等其利用方面が廣いから前途有  
望な貿易品である、本邦生産品の市場として今日から開拓の要  
があるのもこれが爲である。

### ○メキシコ低加州方面行 メキシコ Lower California

のエンセナグ方面へ渡航する者はマザトラン港 Mazatlan に上  
陸してから南太平洋線で北上して米國アリゾナ洲へ迂回して目  
的地に行くものがあるが經費もかかるし、米國も八ヶ間敷云ふ  
から、最初から桑港又はサンピドロ港に上陸して一人につき五  
百ドルの保證金を積んで米國を經由して目的に行くがよい、  
(保證金は米國通過後本人の請求によつて拂戻される)然して米  
國經由墨國渡航者は本邦出發前米國領事より米國通過の査證を  
うければ何等の故障なく米國上陸を許される、これがないと移  
民局に收容される、故にこの方面に行くものは米國經由墨國行  
の旅券をうけ、出發前本邦墨國領事及米國領事から査證をうけ  
ることゝ注意したい、この方面は日本人移民の見込の多い所  
である。